

中学校国語 A (主として「知識」に関する問題)

平成28年度
全国学力・学習状況調査

問題の趣旨

国語に関する学習内容のうち、これからの学習や生活をする上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力について調べる問題です。漢字、歴史的仮名遣い、言葉の意味や使い方、分かりやすい話し方、文章の読み取り、書写などが出題されています。

全体の正答率

* 平均正答率とは、ひとりひとりの児童生徒の正答率(全設問のうち何%の設問に正答したか)を平均したものです。

平均正答率は全国と比較して
0.7%上回っています

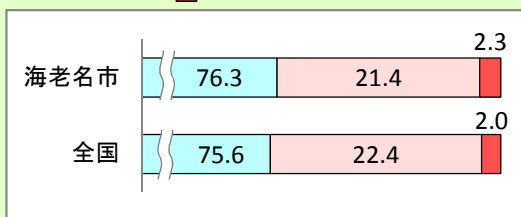
《平均正答率(%)》

	海老名市	神奈川県	全国	全国との比較
国語A	76.3	75.4	75.6	+0.7

誤答の
様子は…

《誤答の内訳(%)》

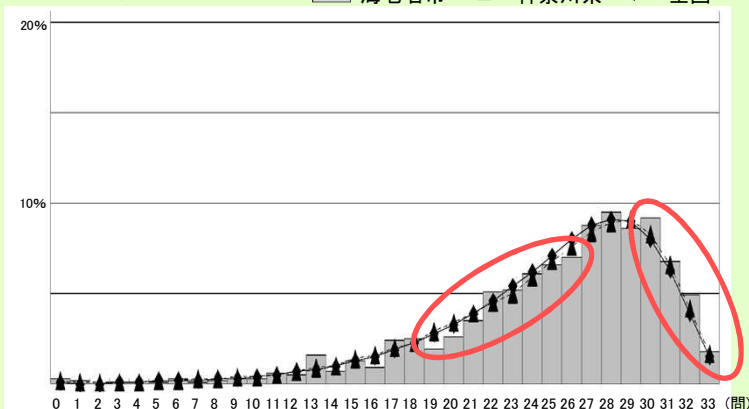
■ 正答 ■ 誤答(書いたが不正解だった)
■ 無解答(何も書かなかった)



無解答率(何も書かなかった)は2.3%でした。

《正答数による分布》

■ 海老名市 ▲ 神奈川県 ◆ 全国



全国と比較すると
正答数が30問以上の生徒が多く
19~26問の生徒が少ない
ことが傾向としてわかります

* 正答率50%以下(0~16問)の生徒の割合は
7.4%でした。(全国は7.8%)

* 正答率80%以上(27~33問)の生徒の割合は
49.6%でした。(全国は46.6%)

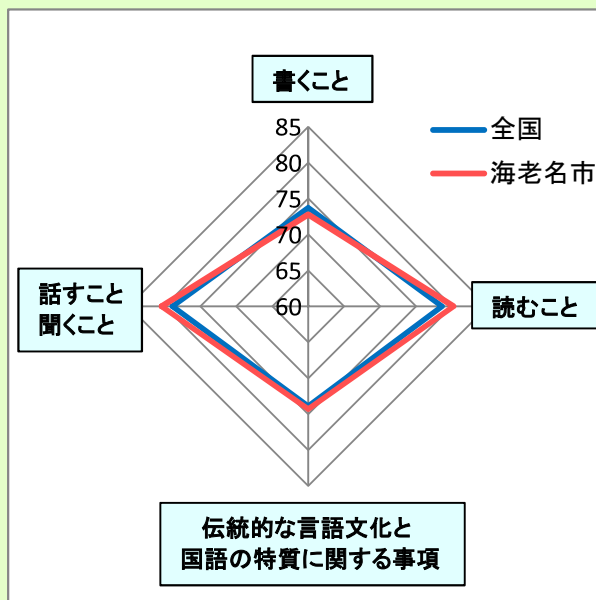
領域別の正答率

「書くこと」以外は全国と比較
してやや上回っています

	海老名市	全国	全国との比較
話すこと・聞くこと	80.4	78.9	+1.5
書くこと	72.8	73.7	-0.9
読むこと	80.2	78.6	+1.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.3	73.9	+0.4

* 「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、約1.5%上回っていました。

* 「書くこと」については、0.9%下回っていました。



内容について

* ()内は、平均正答率の全国との比較

全国を上回った設問

- 毛筆で書いた題名を見て、何に注意して書き直したのかを選ぶ。(+12.8)
- 「奥付」を活用するときの留意点を選ぶ。(+4.0)
- 話を踏まえ、発言の内容として適切なものを選ぶ。(+3.9)

全国を下回った設問

- 漢字を読む。(敬う) (-7.1)
- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。(追ひし) (-2.6)
- 漢字を書く。(研究) (-2.5)

国語Aで平均正答率が全国を下回った設問の例

漢字の読み書きの設問

次の文中の —— 線部の漢字の正しい読みをひらがなでいねいに書きなさい。

目上の人を 敬 う。 (全国との比較-7.1%) 正答 うやま(う)

次の文中の —— 線部のカタカナを漢字に直し、楷書でいねいに書きなさい。

大学で歴史の ケンキュウ をする。 (全国との比較-2.5%) 正答 研究

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問 (全国との比較-2.6)

—— 線部「追ひし」を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きなさい。

正答 おいし

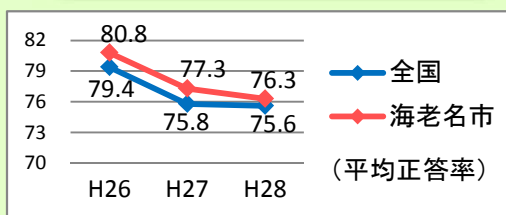
ふるさと
うさぎ追ひしかの山 小ぶな釣りしかの川
夢は今もめぐりて 忘れがたきふるさと

☆国語Aのすべての設問は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

考 察

- ◆ 全国と比べて、正答数が30問以上の生徒が多く、19～26問の生徒が少ないことから、基礎的な力はおおむね身につけている。
- ◆ 相手に伝わるように書くことや文の使い方に注意して書くことの設問については、全国と比べて平均正答率が下回っているため、指導の工夫が求められる。
- ◆ 文章を読み内容を理解することの設問については、全国と比べて平均正答率が高く、指導の成果がうかがわれる。

これまでとの比較



- ◆ 3年間とも全国を上回っているが、平成27年度は差が大きくなり、平成28年度は差が小さくなっている。

- ◆ 平成26・27年度は全領域において全国を上回ったが、平成28年度は「書くこと」において全国を下回っている。

指導の改善にむけて

- ◆ 「伝えたいことを相手に分かりやすく書く」ために
 - 伝えようとする内容にふさわしい語句を選んだり、分かりやすく伝わるような文の使い方を考えたりするように指導する。
- ◆ 「言語事項を確実に習得する」ために
 - 既習の漢字や慣用句・ことわざを日常生活や他教科の学習の中で適切に使用するように指導する。